



亜急性病床2床認可

副院長 磯嶋 浩二



皆さんは、“平均在院日数”という言葉を知っていますか？
 文字通り、入院されている患者様が、平均して何日在院しておられたかを3ヶ月単位で計算したもので、次の計算式で算定されます。

直近3ヶ月間の在院患者延日数

(直近3ヶ月間の新入院患者数 + 新退院患者数) × 0.5

厚生労働省は、医療費の高騰を抑える目的で、入院日数を短縮するために、各病院にその施設基準に応じた平均在院日数を課し、守れない病院には以後の診療報酬を大幅にダウンさせるというペナルティーを与えます。以前は、症状がすっかりよくなるまで入院させてもらっていたのが、今や手術や検査が終了すれば、痛みや熱が多少あっても退院させられるのはこのためです。ちなみに、三井病院が守るべき平均在院日数は24日です。

しかし、中には、家庭の事情や交通手段の関係で、頻回の通院が困難なため入院の継続を強く希望される患者様もおられます。そういった場合のために、入室した日から90日間、在院日数にカウントされることなく入院を続けられる、<亜急性病床>という部屋単位の病床が認められています。<亜急性病床>は、厳しい条件を満たした上で申請がとおれば認可されます。平成19年6月より、三井病院にも2床の<亜急性病床>が認可されました。

<亜急性病床>は、急性期治療が一段落した患者様が、退院して在宅に復帰するのを支援するためのベッドです。<亜急性病床>を退室する時は、必ず居宅もしくは介護老人保健施設、介護老人福祉施設へ退院しなければならず、同じ病院内の他の病室への転室や、他の病院への転院は認められません。また、前述のごとく、<亜急性病

床>の利用日数の上限は90日ですが、何日間入院するかは入室前に患者様やご家族に決めていただき、その日数を実現できるよう、在宅復帰支援の担当者が、退院のさいの問題点についてご相談を受けます。

<亜急性病床>での医療費は、食費・医学管理料・リハビリ・高額な処置・手術・麻酔などを除いて1日20,500円(今後の診療報酬改定により変更有り)の定額医療で、この中に部屋代や注射・検査・飲み薬の代金を含みます。1割負担の方で1日約2,000円、3割負担の方で1日約6,000円の自己負担となります。

皆さんやご家族が、三井病院に入院して退院が決まったとき、何らかの理由でもう何週間か入院を続けたいという状況であれば、<亜急性病床>が利用可能かどうか病院職員にお尋ねください。

インフルエンザ予防接種

インフルエンザは風邪と異なり高熱・倦怠感・筋肉痛など全身症状が5日間ほど続き、気管支炎、肺炎などを併発しやすい危険な感染症で時には死に到ることもあります。ワクチン接種を受けてからインフルエンザに対する抵抗力が付くまでには、一般的に2週間程度かかると言われています。

その為ワクチンの接種は流行が始まる前の10月下旬から12月中旬頃に行うのが望ましいとされています。

当院では予約制となっておりますので、ご希望の方は総合受付へ御申し出下さい。

献血バス来院

6月22日(金)13:00~16:00に献血バスがやってきました。受付31人、そのうち400ml献血は16人、200ml献血は5人でした。皆様の暖かいご協力ありがとうございました。



患者様の権利について

私たちは患者様の権利を尊重し、信頼関係を築き患者様中心のあたたかい医療の実践に努めます。

1. 患者様の意思を尊重し満足される医療を提供いたします。
2. 治療の説明を受け、選択や拒否ができるように致します。
3. プライバシーを尊重いたします。

病院理念

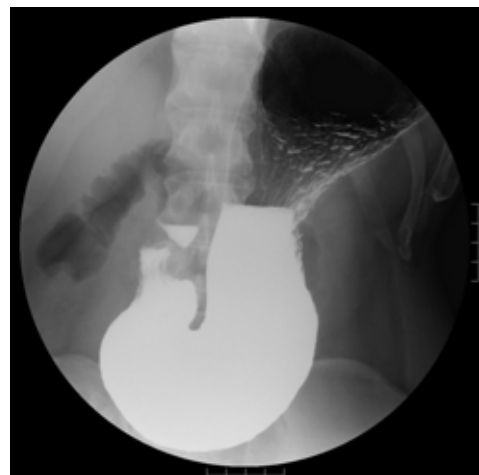
1. 21世紀における最も大切な人間の生活の質を向上させる医療を分担する。
2. 患者様に優しい医療、インフォームドコンセントを重視した医療を提供する。
3. 全職員が医療人としての使命感と誇りを持った医療を心掛ける。

X線TV装置・歯科用パノラマX線撮影装置

放射線科 武田 典之

この度、X線TV装置及び歯科用パノラマX線撮影装置を更新しました。

X線TV装置は、X線で透視をしながら撮影や診断をする装置で、胃や大腸などの消化管造影検査をはじめ脊椎腔造影など整形外科領域の検査、内視鏡を用いた検査、血管造影検査など様々な検査に使用されています。



今回導入された装置はDR（デジタルX線撮影装置）システムと呼ばれるもので、画像をデジタル信号に変換して処理するため、撮影した画像をすぐに確認できます。さらに、見えにくい部位を拡大、ネガ・ポジ反転などといった画像処理を行うことによって、より診断しやすい画像を提供することが可能です。また、寝台が昇降式なので検査を受けられる方々の移動を安全かつ効率的に行うことができます。

歯科用パノラマX線撮影装置は、歯列、下顎骨、顎関節を一枚のフィルムにパノラマ像として描出することの出来る断層撮影装置です。こちらでもデジタル対応ですので、より安定した高画質な画像で皆様の治療に役立てることが出来ます。



なんこう練太郎

薬局長 山本 慎二

患者様の症状により、複数の軟膏を混合する事があります。以前は手で混ぜていた為、時間がかかり調剤者により差ができる恐れもありましたが、本機は材料の入った容器を自転させながら公転させることにより混合するので、気泡の入らない均質な軟膏が作れるようになりました。また時間も大幅に短縮されました。



南病棟敬老会開催

9月19日（水）南病棟において敬老会を催しました。当病棟には男性11名、女性28名、最高98歳の方がおられまして、入院患者様の平均年齢は約88歳です。

この会では患者様とその家族と職員の皆で食堂に集まり、スタッフが「おてもやん」や「おとみさん」などの歌と踊りを披露して楽しんだり、尾頭付きの鯛焼きでお祝いしたりしました。

最後に参加者全員で「ずんどこ節」を鳴子で拍子を取りながら歌い、心を和ませ時間を過ごし、皆様の長寿をお祝いしました。



健康管理手帳検診スタート

これまで岡山労災病院にて健康管理手帳による健康診断を実施してきましたが、当院でも本年5月より岡山労働局より指定を受け、玉野市在住の方に限り健康診断を実施することとなりました。

この健康診断は労働安全衛生法により健康管理手帳を交付された方について、退職後の健康管理を行うもので、「石綿健康管理手帳」「じん肺健康管理手帳」「塩化ビニル健康管理手帳」等があります。